

## 令和6年度 第2回 宮原小学校学校運営協議会議事録

さいたま市立宮原小学校

- 1 日時・場所 [日時] 令和6年11月7日(木) 11:00～12:30  
[場所] 第1会議室

- 2 出席 委員 森下 佳代 宮原児童センター館長  
中山 和義 宮原地区自治会連合会副会長  
清水 猛 鍛冶自治会長  
白石 王恵 チャレンジスクール教室コーディネーター  
清水 ヨシ子 宮原地区民生委員・児童委員協議会長  
青木 洋 宮原中学校学校地域連携コーディネーター  
(田中 和浩 宮原中学校長が代理出席)  
井上 雅史 宮原小学校校長  
長沼 幸男 宮原小学校学校地域連携コーディネーター
- 欠席 委員長 関根 俊幸 宮原公民館長  
副委員長 川嶋 隆 宮原小学校PTA会長  
嶋村 茂 宮原地区社会福祉協議会会長  
清水 浩 近隣幼稚園・保育園代表  
岸 文夫 大宮交通安全協会宮原支部長  
佐藤 幸枝 主任児童委員

### 3 次第

(1) 開会

(2) 校長あいさつ

(3) 授業参観

(4) 学校の取組について

「学校自己評価システムシートに掲げた重点目標の進捗状況について」【教頭】

○「主体性」「学びの達成」「読解力」「言語活動の充実」をキーワードにした  
確かな学力の定着

- ・全国学調、市学調の結果を踏まえ、学校課題研修として授業研究を行い、市教委から指導助言を仰いでいる。今年度は、1人1回以上、校内公開授業を実施し、授業力向上に努めている。

○健康・体力の向上と安全な学校づくり

- ・けがによる保健室来室が年々増えていることが課題である。
- ・梅檀の剪定、側溝工事等の施設、設備の修繕等については、市教委と連携し、計画的に進めている。
- ・令和9年度以降のリフレッシュ工事に向けて調査を行っているところである。

○コミュニティ・スクールを核とした学校と保護者、地域との強い絆で結ばれた学校づくり

- ・学校運営協議会、スクールサポートネットワーク等、関係の皆様のお力添えにより教育活動を計画的に進められている。
- ・第1回の内容について、学校だよりに掲載するなど周知を図ってきた。

○教育に携わるプロとしての自覚をもち新たな教育課題に敢然と立ち向かう教職員集団の育成

- ・ICT機器を効果的に活用した授業を推進しているところである。
- ・今まで以上に一人ひとりに時間と手間をかけて、個に応じた重点的な指導が求められる中、教員が授業準備や教材研究等に十分な時間を割くことができない現状がある。
- ・増加傾向にある特別な教育的支援を必要とする対応について、家庭や地域の方々の理解を得ながら個別の対応に努めていきたい。

(5) 学校評価について

- 学校経営に関して
- 教育課程学習指導に関して
- 生徒指導、教育相談に関して
- 学校安全に関して
- 学校給食に関して
- 学校保健に関して
- 特別支援教育に関して
- 組織運営に関して
- 研修に関して
- 保護者・地域との連携に関して
- 施設・設備に関して

- ・11月22日（金）までに提出をお願いします。

## 4 議事概要

### (1) 熟議

テーマ：「安全・安心な学校づくりを進めていくために、施設や木々等の維持管理、景観問題への対応をどのように行っていくか？」

#### ○学校として

- ・広い敷地を管理する中で、夏場における雑草の生育等、対応が追い付かないことがある。実際に、近隣の方からの対応依頼も届いているところである。
- ・子どもたちによる環境美化活動を11月の中下旬に計画している。そこに地域や保護者の方が関わっていただくことはできるか伺いたい。
- ・今年度、協働活動として実施し、課題を整理して次年度以降につなげていきたいと考えている。
- ・子どもたちが、地域の方と触れ合うことで、お互いに顔見知りになり、学校運営協議会スローガン「つなげよう あいさつ 伝えよう ありがとう 深めよう きずな～学校・家庭・地域が手を取り合って～」を具体的な姿として深めていくことにつながると考える。
- ・学校と地域が一体となって取り組むことで、地域の行事に子どもたちが参加することにつながっていくのではないかと考える。

#### ○地域として

- ・自治会には、近隣から多くの要望が寄せられている。その中で、梅檀の木の安全性を尋ねるものがあつた。木を枯らす害虫が東北から下りてきているという話もある。実際に、自治会館の木も倒木の危険があることから伐採することになった。
- ・以前は、夏季休業中に、「雑草抜き抜き大作戦」という活動があつた。今後、地域や保護者に周知することで、参加される方も多くいるのではないか。
- ・雑草は実をこぼす前に抜くことが大切であるため、時期を検討するとよい。
- ・何回か機会を設け、年度始めに案内することで都合をつけやすくなるのではないか。
- ・きれいになったところをビフォーアフター等、視覚的に見せることが重要である。
- ・行事等に盛り込まれていれば、ちょっと雑草を抜こうという行動にもつながる。手を付けてよいか分からないという現状もある。
- ・学校の環境美化については、学校の対応には限度がある。協力をすることは、自治会としても惜しまない。
- ・地域には、毎日のように公園等の除草をボランティアで行っていただいている方がいる。昨年、自治会から表彰を行ったところである。誰かがやるだろうではなく、自治会が学校に協力することで地域をよくしていきたい。
- ・取組自体はよいものであるため、参加証をつくるなど工夫していくことも大

切ではないか。

- ・雑草を抜くこと自体に価値があることであり、それ以上に地域の方や子どもたちと接したいと思っても機会を確保することが難しい現状があることから、ぜひ進めていただきたい取組である。
- ・たとえ地域の方でも、顔を知っていないと挨拶を含め、関わりが広がっていかない。顔を合わせる機会が増えていくと、SOSを出せたりすることにもつながるなど、よいことにつながっていくと考える。
- ・過去に、野外活動で蜂に刺された事案があり、翌年から、傷害保険に入ることになったケースがある。実施主体については、保険のことも考えておくとうい。

## 5 諸連絡・相談

### (1) 今後の予定

- 第3回：令和7年2月20日（木）
  - ・熟議内容を踏まえ、次年度の取組案を提案する。

## 6 閉会

閉会后、給食試食を実施